

プロジェクトマネジメントに必要な見方と姿勢

「4－5－3」視座

内容

1. 「4 Relation」 対象連携の捉えかた

2. 「5 Box」 WBS・作業の構造

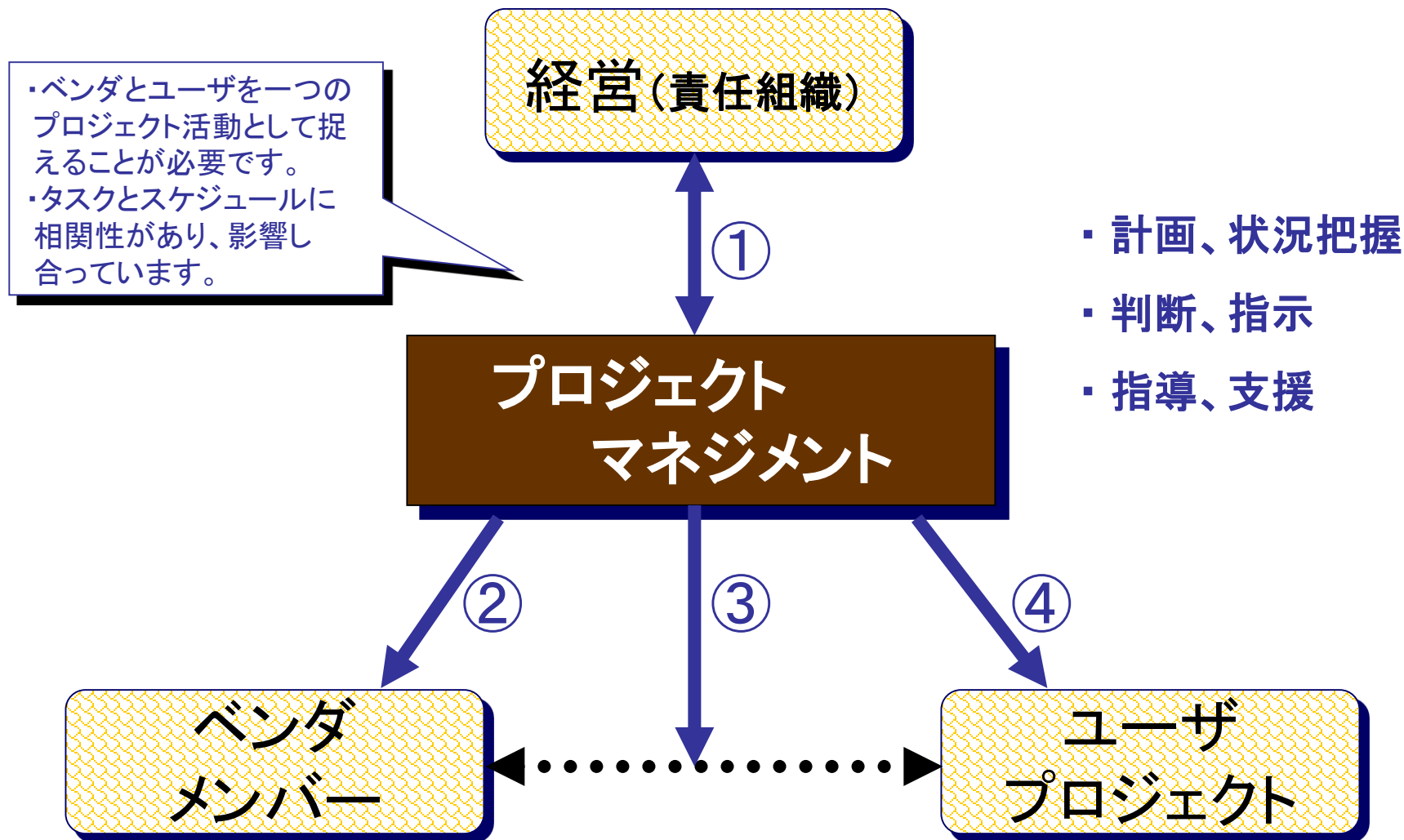
3. 「3 Viewpoint」 WBS・作業への視点

4. WBS・作業フェーズへの視座

5. 「4－5－3」視座の強化

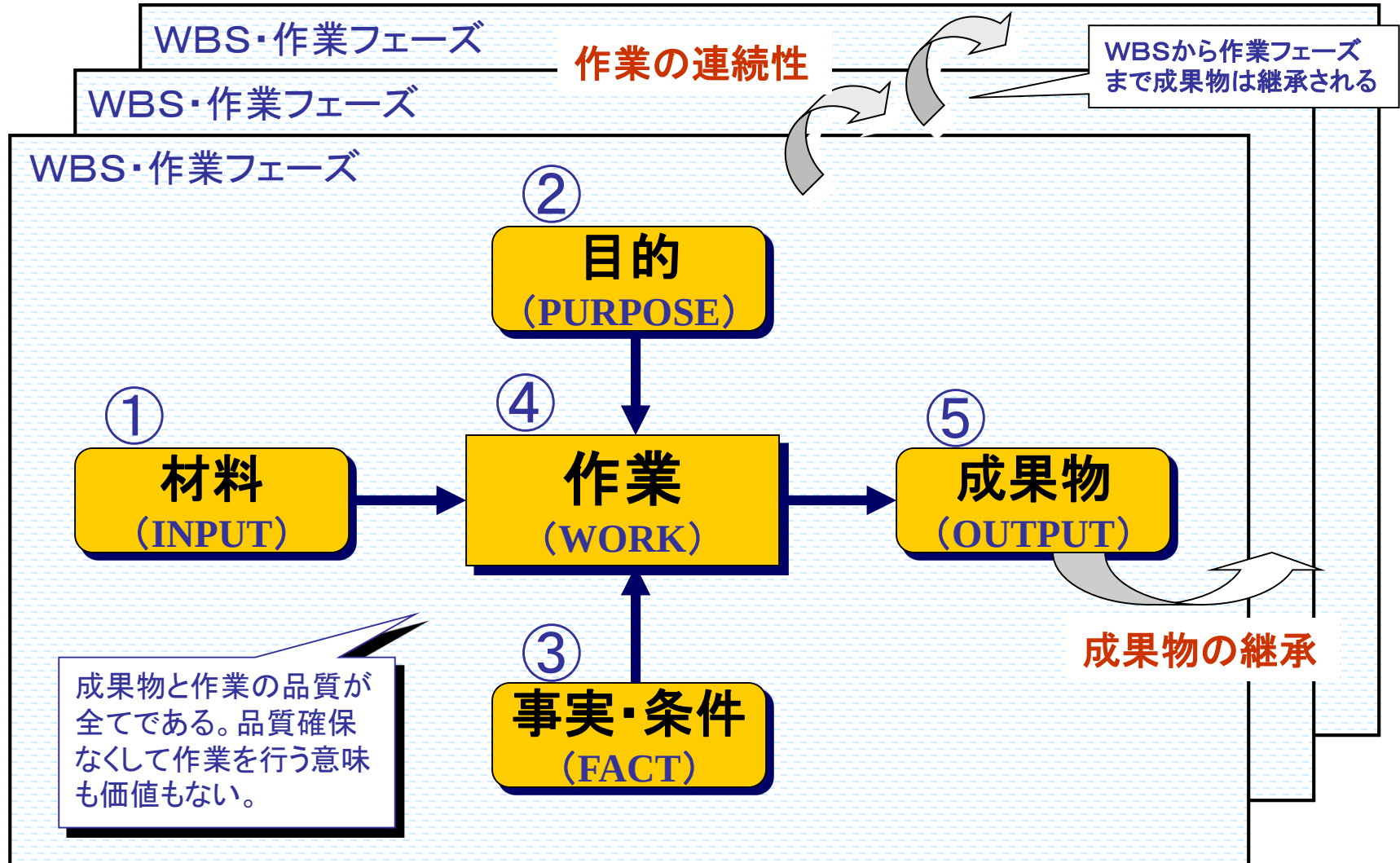
1. 「4 Relation」 対象連携の捉えかた

- プロジェクトの準備から稼働までの全ての作業に、この「4 Relation」の対象と連携がある。
この「4 Relation」を見据えて、プロジェクトマネジメント(計画・指導・判断・指示)が機能する。



2. 「5 Box」 WBS・作業の構造

- プロジェクトの小さな作業から大きな作業まで、「5 Box」の構造を持っている。これらの要素を担当者がしっかり理解し行動することの支援がプロジェクトマネジメントの役割である。



(参照:ダウンロード資料 DL575「WBSの作成要領と管理」の「5. ワークパッケージの留意点」)

3. 「3 Viewpoint」 WBS・作業への視点

- プロジェクトマネジャーは大所高所から、リスク要因の排除とプロジェクト状況の把握が最重要の仕事である。プロジェクトマネジメントを次の視点から行うことが必要である。

① 重点管理

- ・ ABC分析を行い、「A」を重点扱い
- ・ 感情的でなく、合理的に判断
- ・ 「今、何を」重点に置くか

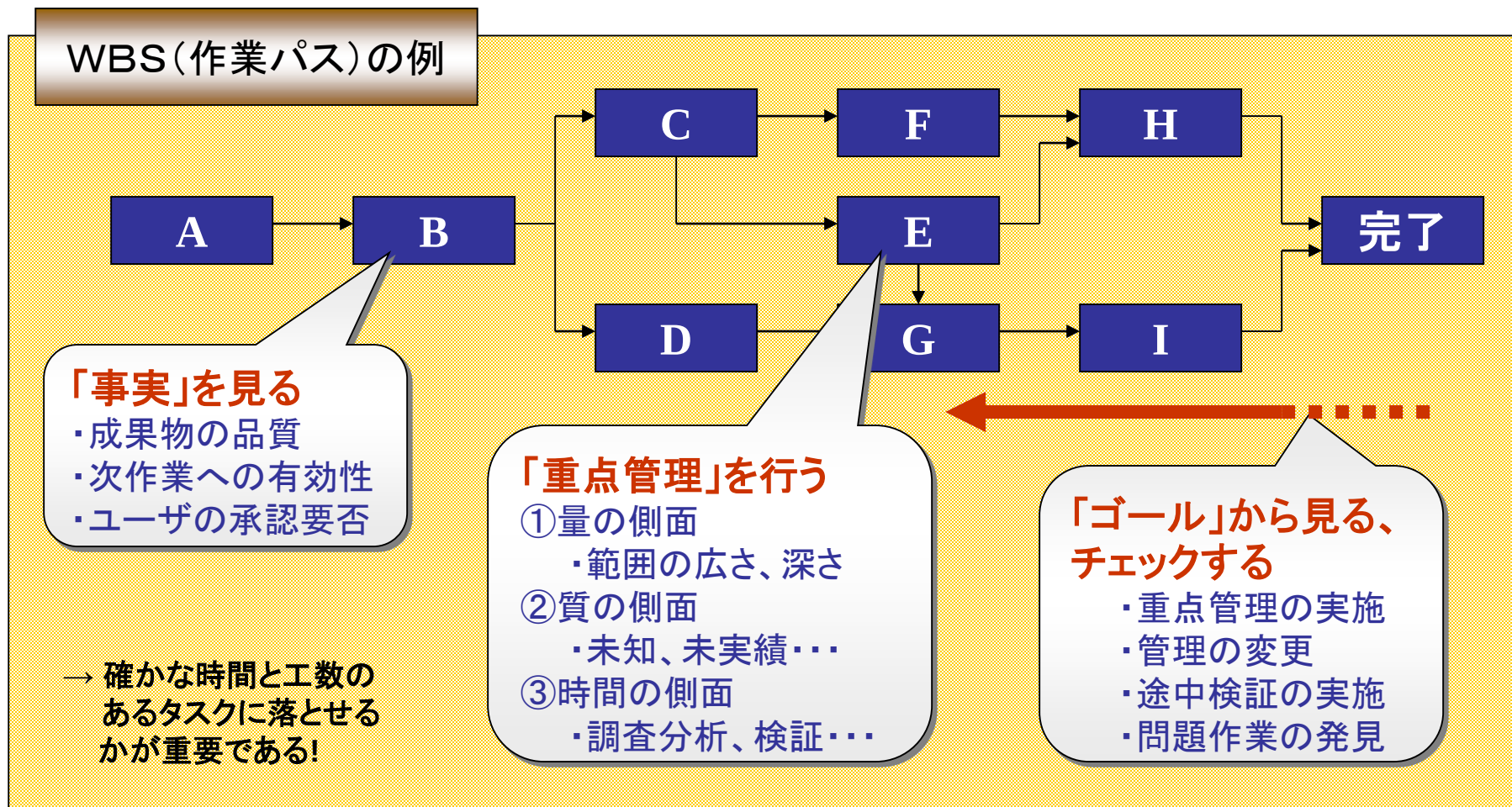
② 「ゴール」から見る

- ・ ゴール(終結)からの逆算
- ・ スケジュール、コスト、技術から抽出
- ・ クリティカルパスをゴールから見る

③ 「事実」を押さえる

- ・ 課題発見、課題解決策の提示
- ・ 「4 Relation」による状況把握
- ・ 「5 Box」への判断、指導、指示

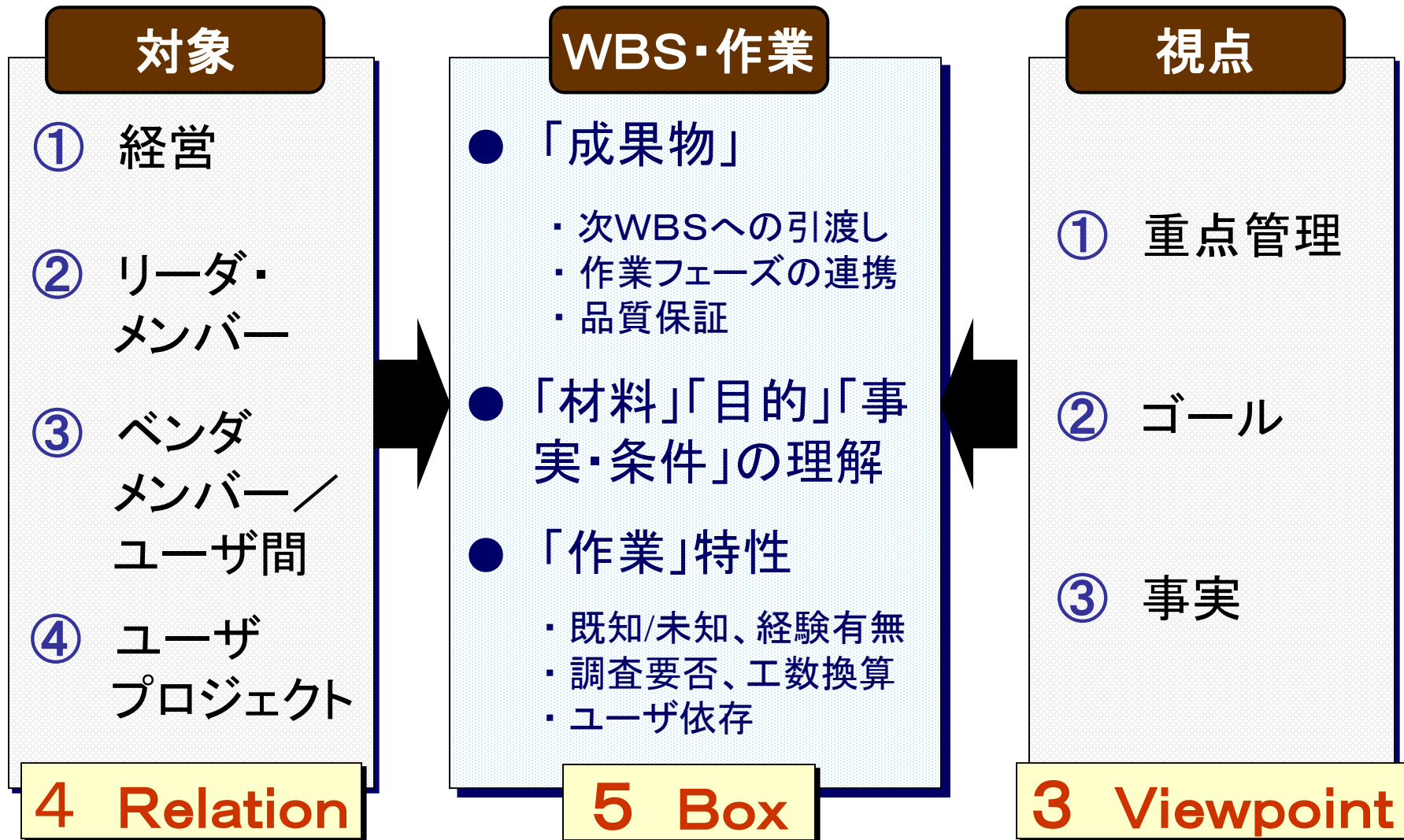
3. 「3 Viewpoint」 WBS・作業への視点



- WBSと作業ごとに、作業の持っている特性と作業パスを考慮する。
- 「木を見て、森を見る」「森を見て、木を見る」の全体観も持つ。
- クリティカルパス(リスクの高い作業順序)にあるWBSと作業を注視する。

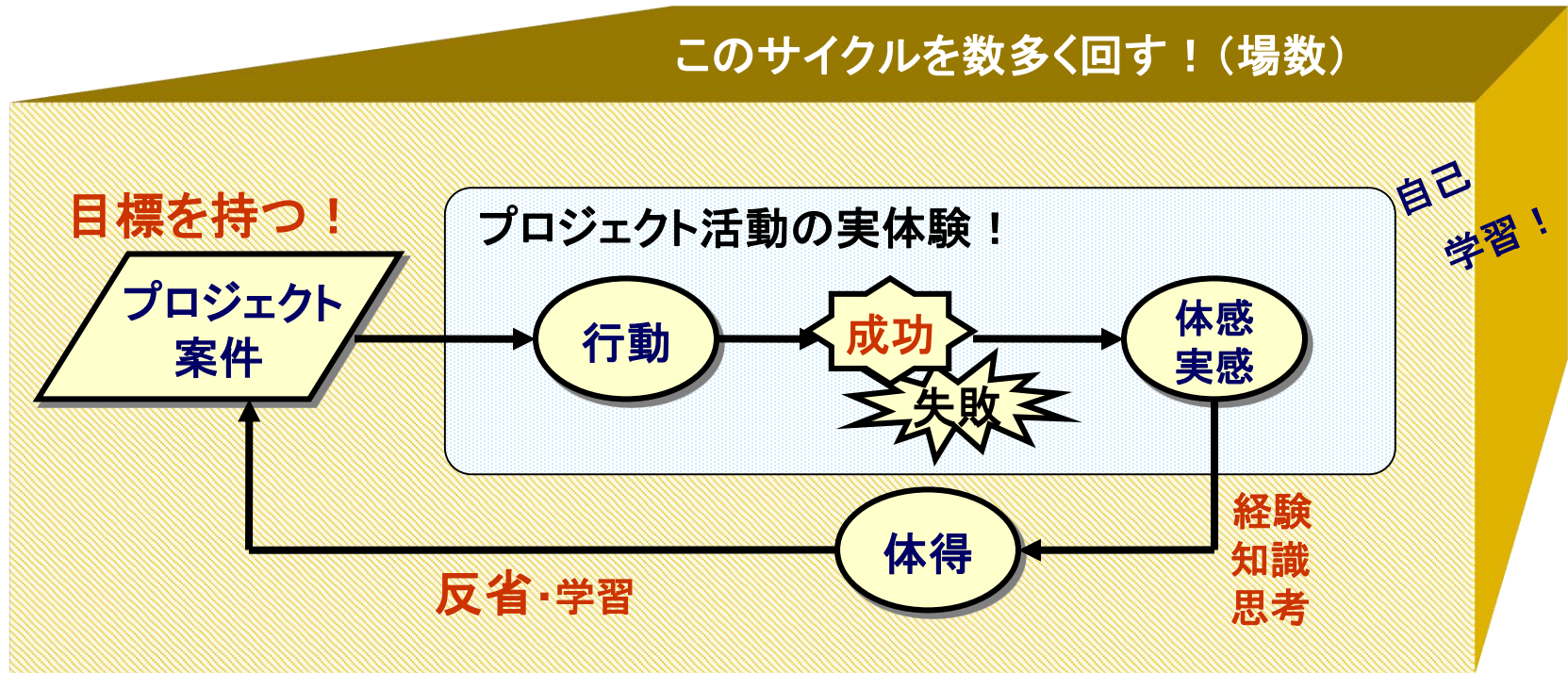
4. WBS・作業フェーズへの視座

- プロジェクトのWBSと作業フェーズは独立しているのではなく、他のWBSと作業フェーズとの関係がある。このことを考慮した「視座」がプロジェクトマネジメントに必要不可欠である。



5. 「4－5－3」視座の強化

- 「4－5－3」視座の強化は自己学習をベースにして、つぎのようなサイクルを身に付け責任転嫁をせず自己目標を持って続けることにある。



（参考－「失敗学のすすめ」著：畑村洋太郎）

- 「プロジェクトマネジャーとしての目標」を持つ
- プロジェクト完了時点で「成功・失敗要因」から学ぶ
- 成功/失敗を糧にして、このサイクルを回す